

ねん がつ にち
2020年4月26日
ふっかつせつだいさんしゅじつ
復活節第三主日
きくち いさおだいしきょう せつきょう
菊地 功 大司教 ミサ説教

がつ にち きんきゅうじたい せんげん さんしゅうかん しょ
4月7日に緊急事態が宣言されて、まもなく三週間となります。諸
がいこく ひかく つよ きせい にちじょう
外国と比較すればそれほど強い規制ではありませんが、それでも日常の
せいかつ いとな さまざま そくめん じしゅく ようせい ふだん こと せいかつ
生活の営みの様々な側面で自粛が要請され、普段とは異なる生活
てんかい
が展開されています。

あんぜん のが ば こんらん げんじつ せ む
もし安全な逃げ場があるのだとしたら、この混乱する現実に背を向けて、
に だ め み しの よ
そこへと逃げ出してしまいたくなりますが、目に見えずに忍び寄るウイルス
かんせん かんせん
はどこにいるのかわからず、感染しないだけでなく、感染させないために
ば ふ
も、わたしたちはこの場に踏みとどまらなくてはなりません。

こんらん まも にちやけんめい はたら い
混乱のさなかにあっても、いのちを守るために日夜懸命に働いている医
りょうかんけいしゃ かんしゃ けんこう いの びょうき
療関係者に感謝しながら、その健康のために祈ります。また病気の
くる うち ひと かみ い て さ の ところ
苦しみの内にある人に、神の癒やしの手が差し伸べられるように、心か
いの いちにち はや じたい しゅうそく きぼう み しゃかい と
ら祈ります。一日も早くこの事態が終息し、希望に満ちた社会が取
もど いの
り戻されるよう、祈ります。

こんばん じたい けんこう そくめん ふあん かか かたがた けいぎいかつどう
今般の事態によって、健康の側面から不安を抱える方々や、経済活動
じしゅく つづ なか けいぎいてきそくめん こんなん ちよくめん かたがた
の自粛が続く中で経済的側面から困難に直面しておられる方々も
せかいかくち き き はつせい きょうかい
おられ、世界各地でいのちの危機が発生しています。教会のカリタスジ
こくざい れんけい なか こくないがい まも
ヤパンでも、国際カリタスとの連携の中で、国内外でいのちを守るため
かつどう しえん もくてき ぼぎん かいし
の活動を支援する目的で、募金を開始しました。

ひ ゆうがた し じゅうじかじょう ころ
さて、その日の夕方、師であるイエスが十字架上で殺されてしまうとい
だいこんらん なか ふたり でし げんじつ せ む あんしん もと
う大混乱の中、二人の弟子は、その現実に背を向けて、安心を求めて

たびだ む
エルサレムを旅立ち、エマオへと向かっていました。

ねん わかもの しんこう しょうめい しきべつ かいさい
2018年に「若者、信仰、そして召命の識別」をテーマに開催された
せかいだいひょうしきょうかいぎ さいしゅうぶんしょ む でし はなし と
世界代表司教会議の最終文書は、エマオへ向かう弟子の話を取
あ お できごと いみ りかい きょうどう
り上げ、「起きている出来事の意味を理解できないままエルサレムと共
たい はな ふたり でし けいよう
同体を離れていこうとしている二人の弟子」と形容しています。(4)

ふたり でし みずか せいめい きけん ちよくめん きょうふ たよ
二人の弟子は、自らの生命が危険に直面しているという恐怖と、頼
しどうしゃ とつぜんうば さ こんらん なか かんが
りにしていた指導者が突然奪い去られたことによる混乱の中で、考
じぶん あんぜんあんしん
えることといえ、いきおい自分の安全安心のことばかりになってしまう。
お つ ふ かえ
だから、落ち着いて、それまでを振り返り、いったいそれまでイエスによ
なに おし
つて何が教えられていたのか、あかしされてきたのか、そしていま起こつて
いみ なに み なお ところ よゆう
いることの意味は何なのか、見つめ直す心の余裕がありません。

せかいだいひょうしきょうかいぎ さいしゅうぶんしょ つぎ つづ
世界代表司教会議の最終文書は、次のように続けます。
ふたり でし ある かけ いっしょ
「二人の弟子とともに、イエスは歩いておられます。彼らと一緒にいよう
かけ みち あゆ かけ なに
として、彼らとともにその道を歩んでおられます。イエスは、彼らが何を
たいけん き て か できごと かけ けん
体験しているのか気づけるよう手を貸そうと、出来事についての彼らの見
かい たず しんぼうづよ みみ かたむ
解を尋ね、辛抱強く耳を傾けておられます」

かいぎ う はつびょう しとてきかんこく い
この会議を受けて発表された使徒的勧告「キリストは生きている」で
きょうこう たい しんこう であ しん
教皇フランシスコは、イエスに対する信仰とは、イエスと出会って真の
ゆうじょう ふか してき
友情を深めることだとして、こう指摘されます。

ゆうじょう ゆ だま み
「イエスとの友情は揺るぎないものです。黙っておられるように見えた
かた けつ ほう
としても、この方は決してわたしたちを放ってはおかれませぬ。わたしたちが
ひつよう じぶん であ い
必要とするときにはご自分と出会えるようにしてくださり、どこへ行こうと
もそばにいてくださいます」(154)

よ お とも でし やくそく しゅ
世の終わりまでわたしたちと共にいてくださると弟子たちに約束された主
は、今日もまた、わたしたちと歩みを共にしていただきます。混乱の中で、
どこかへ逃げていくこともできずに立ちすくんでいるわたしたちと、一緒に
いていただきます。

ひ ゆうがた ふたり でし あゆ はなし しんぼうづよ みみ
その日の夕方、二人の弟子と歩みをともにし、その話に辛抱強く耳を
かたむ しゅ きょう こんらん なか とも
傾けたように、主は今日も、混乱の中にあるわたしたちと共にいて、
しんぼうづよ さけ みみ かたむ いま げんじつ なに まな
辛抱強くわたしたちの叫びに耳を傾け、いったい今の現実から何を学
ぶことができるのか、わたしたちが気づくように手助けしようとされていま
す。

ゆうじょう かた むす しゅ だま
わたしたちを友情の固いぎずなの中に結びあわされた主は、「黙って
おられるように見えたとしても」、必ずや共にいてくださる。わたしたちは
しん
そう信じています。

とも しゅ こんらん ふあん なか お つ
共にいてくださる主は、混乱と不安の中にあるわたしたちに、落ち着いて
しんこう め も げんじつ み なお よ
信仰の目を持って、現実を見つめ直すように呼びかけておられると、わた
おも
しは思います。

すう かげつ じんせい ふ かけつ しん
この数ヶ月、わたしたちは、人生に不可欠だとこれまで信じていたこと
を、せいやく うしな ふかのう おも
を、制約されたり失ってしまいました。そんなことは不可能と思われた、
えんき ちゆうし おお ぎょうしゅ きゅうぎょう じたく しごと
イベントの延期や中止、また多くの業種での休業や自宅での仕事
も、いのちを守るために実現しています。教会も例外ではなく、インタ
まも じつげん きょうかい れいがい
ーネットの配信を通じて祈りを捧げたりすることが、普通の風景となり
はいしん つう いの ささ ふつう ふうけい
つつあります。

うしな せいやく ふひつよう けつろん
失ったり制約されたことで、すべてが不必要だったと結論づけること

はできませんが、いまは、これまでの社会のあり方を見つめ直し、評価する「とき」でもあると感じています。

インターネットでミサを配信することで、即座にもう教会の建物はいら
ない、教会はバーチャルで充分だと結論づける誘惑もありますが、
わたしは、教会共同体の意味を、あらためて落ち着いて見つめ直す機会
が与えられていると思っています。ただ単に、日曜日にミサに出ればそれ
で終わりの教会ではなくて、日常生活の直中で、人間のいのちの営
みに直接関わる教会のあり方を、あらためて模索する機会を与えら
れていると思います。信仰は生きています。

教皇フランシスコは「キリストは生きている」の中で、聖オスカル・ロメ
ロ大司教の、いかにも聖人らしい次の言葉を引用しています。
「キリスト教は、信じるべき真理、守るべき法規、禁止事項の一そろ
いではありません。そうなったら不快です。キリスト教とは、わたしのこ
とをあれほどまでに愛してくださり、わたしに愛を求めておられる、あの方
のことです。キリスト教とは、キリストのことなのです」(156)

使徒言行録の中でペトロは、ダビデの言葉の引用として、力強くこう
宣言しています。
「主がわたしの右におられるので、わたしは決して動揺しない」

不安の中にたたずんでいるわたしたちと、常に共にいてくださる主イエス。
いつも傍らにおられる主は、わたしたち一人ひとりに、この混乱の中で、
どのように生きることを求めておられるのか、心静かに、祈りの中で主
の声に耳を傾けたいと思います。

先ほどの世界代表司教会議の最終文書の続きには、こう記されて

います。

「^{みみ}耳を^{かたむ}傾けてもらうことで、^{かれ}彼らの^{こころ}心は^{あつ}熱くなり、^{あたま}頭が^{さえ}さえ、^{ぶんかつ}パンの^め分割によって、^{ひら}その目は^{かれ}開かれます。^{かかと}彼らは^{かえ}すぐさま^{かかと}踵を返して、^{きょうどうたい}共同体に^{もど}戻り、^{ふっかつ}復活した^{しゅ}主との^{であ}出会いの^{たいけん}体験を^わ分かち合うことを、^あ自^{みづか}らの^て手で^{えら}選び取るのです」

^{ふあん}不安を^{かか}抱え^{こんらん}混乱する^{なか}中で^{きぼう}希望に^{みち}つながる^{さが}道を探し^{いま}あぐねている^{しゃ}今の^{かい}社^{たいわ}会には、^{みみ}ののしり^{かたむ}あう^あ対話ではなく、^{たいわ}耳を^{ひつよう}傾け合う^{とも}対話が必要です。^{みち}共に^{あゆ}道を^{しんぼうづよ}歩いていく^{ひつよう}辛抱^{おな}強さが^{かみ}必要です。^{あた}同じ^あ神^{かみ}からの^{あた}いのちを^{あた}与えられ^{きょうだい}た^{しまい}兄弟^{ゆうじょう}姉妹としての、^{れんたい}友^{ひつよう}情の^{ひつよう}きずなと^{ひつよう}連帯が必要です。

^{きょうかい}教会^{きょうどうたい}共同体は、^{なか}その中^{かみ}にあつて、^{いっち}神との^{ぜんじんるい}一致^{ぜんじんるい}だけでなく、^{しんみつ}全^{いっち}人類の^{どうぐ}親密な^{じかく}一致の「^{あら}しるしであり^{あら}道具である」という^{おも}自覚を、^{おも}新たに^{おも}したい^{おも}と思^{おも}います。

とりわけ、^{かんしゃ}感謝の^{さいぎ}祭儀^{せいたい}において、^{げんそん}聖体の^{しゅ}うちに^{いっち}現存^{いっち}される^{いっち}主との^{いっち}一致^{いっち}を^{いっち}求めるとき、^{しゅ}わたしたちは、^{ゆうじょう}主イエスとの^{ゆうじょう}友情の^{ゆうじょう}きずなに^{ゆうじょう}むすばれて、^{ぜんじんるい}全人類の^{いっち}一致と^{れんたい}連帯の^{じつげん}実現を^{めざ}目指して、^{しゃかい}社会の^{ただなか}直中にある^{きぼう}希望の^{おも}し^{おも}る^{おも}しとなり^{おも}たい。そう^{おも}思^{おも}います。